

6月は「心のきずなを深める月間」 「人権月間」の取組をしました。

人権だより「なかま」第2号でもお知らせしましたように、宮原小学校では、一人ひとりに教育相談を行ったり、「なかまづくり」の授業に取り組みました。5年生では、「わたしは、強く生きる」というお話でなかまづくりについて学びました。

わたしは、強く生きる

中島 順子

今、わたしは卒業文集のげんこうを書きながら、小学校時代のクラスのみんなのことを、そして、わたしのことをふりかえています。

五年生の一学期の半ば、「人権尊重」という言葉を学習しました。その学習の時、先生が、クラスのみんなに、

「学校でいやなことがあったら、思いきってみんなの前に出してごらん。」

と呼びかけました。それから、先生は、広子さんを見て、うなずいたようでした。そういえば、広子さんは、動作がおそいということ

で、クラスのみんなから、ばかにされたり、のけものにされたりしていました。

しばらく考えていた広子さんは、ふるえながら立ち上がり、

「わたしをのけものにしないで下さい。どうして差別をするんですか。もう差別はいやです。」

となみだがらにうたったました。教室じゅうがシーンとなり、それを聞いていたわたしたちも、なみだが流れてきました。それまでのわたしは、友だちが差別的な言葉でなじられたり、たたかれたりして、ひどい目に合っ

①

②

④

③

また、体育の時間にも、よくいやな目に合いました。自分では、人と同じようにしようと努力するのに、どうしてもみんなのようにできない時がありました。

五年生の人権学習の後、帰りの会で、「一日の中で、うれしかったこと、いやだったことを出し合っていくことにしました。問題が起こると、解決するまでとみんななで



「えー、へたくそ、しきらがね」と、笑いました。わたしは、顔を赤くし、泣きかけたくらいでした。しかし、わたしは何も言わずに、ぐっと口びるをかみしめるばかりでした。言おうと思っても、何も言えなかったのです。

話していました。みんなで解決できない時は、先生がアドバイスをしてくれました。

五年生の三学期のことです。わたしが、そうじ時間にふざけていた人たちに注意したら、反対に、

「うるさかね、のろま」と言い返されました。その時は、そのままに増してきて、このままではいけないと思い、このことを思いきって帰りの会に出しました。

そして、みんなで解決していききました。その後、胸につかえたものが取れ、すっきりした気持ちになったことを覚えていました。

今は、あの四年生のころの苦しみはありません。広子さんも、友だちが増え、楽しく学校生活を送っています。



な かよくしょう か たりあおう ま るい心でつながろう

No.3の2 2023年6月30日(金) 文責:校長:高橋・人権同和教育主任:澤本

1年生では、「おともだち」というお話でなかまづくりについて学びました。みんなの中で生活することで、自分にはできても友だちにはできないこともあるだろうし、またその反対もあるでしょう。その中で生まれてくる友だち一人ひとりのしんどさやいたみを、自分には関係ないではなく、なかまみんなで分かりあったり励ましあったり、考えながら力をあわせたりと集団として解決していくことの大切さに気づかせていくものです。

おともだち

かえると、ひよこと、ありと、
てんとうむしと、ねずみが、森へ
あそびにいきました。
川がながれています。
かえるは、
「この川をおよいで
わたろうよ。」
といって、ザブンととびこみ
ました。
すいすい川をおよぎます。
「さあ、みんなとびこむんだ。」
川の中でかえるは、
いいました。
みんなは こまって しまいました。
「だめだよ ぼくらは 川を
わたれない。」
ねずみが いいました。
ひよこも、はねを パタパタ
させました。
ありは、こわごわ 川を
のぞきました。
てんとうむしも、ひげを
ふりました。
みんなは、どうしたら 川を
わたれるか かんがえました。
「なんとかして 川を わたろう。」
「そうだ、そうだ。」
みんなで、そうだんする
ことになりました。

学級一人ひとりが考えを出しあい
話しあう中で、友だちの意見を聞き、
認めあうことで学級のつながりを深
めていきます。しんどいことも話せる、
安心できるなかまをめざしています。

